

6 受容から始まる学習指導

教科の指導と生徒指導の一体化

「主体的・対話的で深い学び」を実践するには、生徒たちが安心して活動に取り組める集団づくりが欠かせません。授業は全ての生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場であることを意識して、授業の中に「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」が実現できるような活動や働きかけを取り入れましょう。

「能動的に聴く態度」の育成

そのためにも、まずは授業を通して生徒に「能動的に聴く態度」を身に付けさせてはいかがでしょうか。クラスの全員が自分の発言を共感的な態度で受け止めていれば、話し手も分かりやすく話したい、丁寧に説明したいと思うようになります。また「聴くこと」は、自らの思考を広げ、深めることや、判断材料を増やすという意味においても大切です。このことをしっかり生徒に伝え、日常的に「能動的に聴く態度」で生徒が授業に臨めることを目指しましょう。

教員が聴く姿勢を示す

生徒が発表や発言をしている時、その言葉だけを聞いていません。生徒が言葉を発している時には、その内容や思いをきちんと受け止めなくてはなりません。教員がロールモデルとなって聴く姿勢を示すことが、生徒の「聴く態度」を育成する第一歩です。

また、その発表や発言を聴いている生徒たちの思いや、つぶやきも聴くようにしましょう。生徒同士の考えをつなげることは、教員の大切な役割の一つです。

☆「聴く」と「聞く」

同じ「きく」という漢字です。どちらも音や言葉を「きく」という意味ですが、「聴く」は注意深く耳を傾けてきくときに使う漢字です。

話し手の声を傾聴してほしいとの思いを込めて、授業で生徒に身に付けさせたいのは、「聴く態度」であることを意識しておくといでしょう。

聴き方のコツを伝えよう

自分の話は一方的にするけれど、人の話を聴くことが苦手な生徒がいます。話を聴くときには、うなずく、相づちを打つ、いいと感じたことを伝えるなど、聴き方のルールやコツをメモにして渡しておく、スムーズな話し合いをすることができるようになります。

個別支援が
必要な生徒
への対応を
考えよう



ファシリテーターとしての教員の役割

「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためにも、生徒が安心して活動に取り組める集団づくりが欠かせません。『生徒指導提要(改訂版)』にある「生徒指導の実践上の視点」を踏まえて、「個別最適な学び」「協働的な学び」を促進させるよう工夫しましょう。

<例> 「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた学習活動

(1) 自己存在感の感受

- 「自己存在感」を実感する場面の設定
- 「自己肯定感」「自己有用感」を育む活動
- (例) ・ 生徒の発言やつぶやきを積極的に取り上げる
- ・ 生徒が主体的に考え、行動できる場面を設定する

(2) 共感的な人間関係の育成

- 認め合い・励まし合い・支え合える集団づくり
- 理由や方法等を皆で考える、支持的で創造的な集団づくり
- 相互扶助的で共感的な人間関係の育成
- (例) ・ 多様な考え方に触れる機会を設ける
- ・ 他者の考えを参照して学ぶ時間を設ける

(3) 自己決定の場の提供

- 自ら考え、選択し、決定する等の体験
- (例) ・ 学習活動や学習課題を生徒が選択できるようにする
- ・ 振り返りの時間を十分確保し、学習の調整を図らせる

(4) 安全・安心な風土の醸成

- お互いの個性や多様性を認め合う
- 安心して授業や学校生活が送れるような風土を生徒自らがつくり上げるようにする
- (例) ・ 生徒の発言に間違いがあっても遮らずに最後まで聴く
- ・ 多様な意見や考えを尊重する態度を教員が率先して示す

☆ 授業で育む「自己指導能力」

生徒指導の目的は、「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えること」です(『生徒指導提要(改訂版)』より抜粋)。この目的を達成するためには、一人ひとりの児童・生徒が「自己指導能力」を獲得することであると記載されています。

「自己指導能力」とは、端的に言うと「主体的な選択・決定を促す力」です。

- ▶ 主体的に問題や課題を発見する活動
- ▶ 自己の目標を選択・設定する活動
- ▶ 目標達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決定し、実行する活動

学習指導において、自己指導能力の育成に必要なこれらの活動を、継続的・反復的に経験させましょう。

発達支持的生徒指導とは(『生徒指導提要(改訂版)』より(一部改編))

発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。発達支持的というのは、児童生徒に向き合う際の基本的な立ち位置を示しており、あくまでも児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や教職員がいかに関与していくかという視点に立っています。したがって、教職員は、児童・生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ように働きかけます。